

平成30年度
(平成29年10月～平成30年9月)

環境活動レポート



八幡自動車工業

ロゴマークの説明

- ・グリーンの色は環境への優しさをイメージしています
- ・センターの白線は永遠に続く道をイメージしています
- ・イニシャルのYは工具で技術をイメージしています
- ・社名のグレーはエンジンのメタリックをイメージしています

作成日：平成31年2月20日

目次

1. 組織の概要
2. 経営理念・環境方針・環境活動・環境目標
3. 実施体制
4. 現状での改善課題と改善活動の行動指針
5. 環境目標
6. 環境目標の実績
7. 環境活動計画の取組結果とその評価と
次年度の取組内容
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び
評価の結果並びに違反、控訴等の有無
9. 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 組織の概要

1 事業者名および代表者名
有限会社 八幡自動車工業
代表取締役 井上 邦広

2 所在地
本社事業所：大分県大分市大字横瀬400番地の1
出先事業所：三菱ふそうトラックバス(株)大分支店内工場（但し管理の範囲からは除く）
出先事業所：UDトラックス(株)大分支店内工場（但し管理の範囲からは除く）

3 環境管理責任者氏名および担当者、連絡先
責任者 代表取締役 井上 邦広
担当者 工場長 丹生 英司
フロント 松原 努
営業 信岡 幸
業務 梶原 みなみ

連絡先 [TEL:097-542-3388](tel:097-542-3388)
FAX:097-542-1150
E-mail:info@yahatacars.com
URL:<http://www.yahatacars.com>

4 事業内容
自動車の板金塗装並びに整備
自動車の販売
自動車レンタル業
自動車部品の販売
損害保険代理業
生命保険の募集に関する業務
上記各号に附帯する一切の業務

5 事業規模

活動規模	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
売上高	百万円	244	240	247	294	
従業員	人	24	23	26	27	29
本社事業所	人	20	20	24	24	26
延べ床面積	m ²	2595.81	2595.81	2595.81	2595.81	2595.81

6 事業年度
期首 10月1日
期末 9月30日

7 対象範囲
本社事業所での全活動

2. 経営理念・環境方針・環境活動・環境目標

◆経営理念

自動車業界を取り巻く環境は、経済の成長、科学の進歩とともに大きく変化しています。ますます便利になった自動車は、地球温暖化の元凶とされるCO₂を多く排出します。そこで各自動車メーカーはCO₂を削減させるためにハイブリッド車や燃料電池車(FCV)など次世代自動車を開発し提供しています。しかしまだ多くの自動車はガソリンや軽油などの化石燃料を必要としています。そこで適正なメンテナンスを行うことは、私たち整備工場はもちろんのことユーザー様にとっても社会的義務であるといえます。またCO₂の削減を計るということは、省燃費につながり経済的なメリットを得ることができます。そこで私たち八幡自動車工業の持てる技術と経験、ネットワークや情報をフルに活用してユーザー様に効果的なサービスを提供することは私たちに課せられたミッション（使命）です。そして、その使命を果たすことによって美しい自然を未来の子供たちに残り、ユーザー様に喜ばれ、そして企業として成長することで社員や家族の夢を実現させることができると確信しています。

「環境に優しく、お客様に喜ばれ、社員に愛される会社を目指す。夢の実現へ!!」

◆環境方針

自動車が地球環境に及ぼす影響は製造過程からその使用に至るまで非常に大きいといえます。そこで自動車整備を任されている事業者として地球環境の保全、さらに向上を目指すために環境目標を定め、達成に向けた環境活動を推進いたします。

◆環境活動

- 1 事業活動に関する環境法規およびその他の要求事項を遵守します。
- 2 環境目標を定めて、定期的に見直し、継続的改善に取り組みます。
- 3 環境負荷の低減、地球環境を保全するために次の活動を推進します。
 - i) 報告・連絡・相談・声掛け・指示
 - ii) 車輛の入れ替え・駐車
 - iii) 部品手配・イラスト手配
 - iv) 5S運動
 - v) エコ活動
- 4 環境方針を全従業員に周知させるための教育を積極的に行います。
- 5 環境方針はすべての方に開示します。

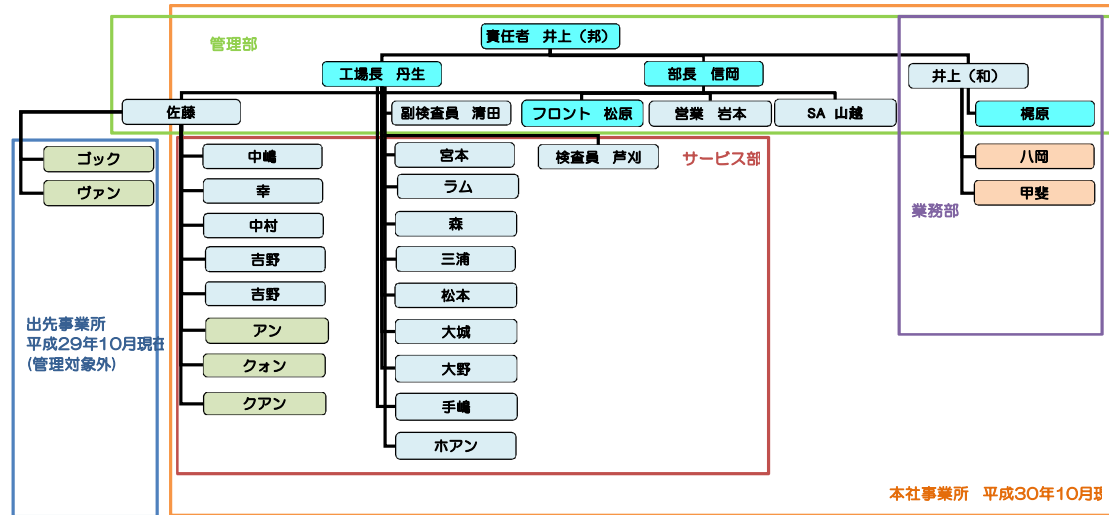
◆環境目標（環境負荷）

- 1 二酸化炭素排出量の削減
- 2 電気使用量の削減
- 3 ガソリン使用量の削減
- 4 軽油使用量の削減
- 5 廃棄物排出の削減
- 6 水使用量の削減
- 7 グリーン製品の購入
- 8 環境啓発活動
- 9 化学物質の適切な管理

平成25年9月1日

有限会社 八幡自動車工業
代表取締役 井上邦広

3. 実施体制



役割と責任

代表者	井上(邦)	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営の最高責任者 ②環境方針の制定、環境目標及び環境活動の承認 ③環境経営システムの評価、全般的な見直し ④環境活動計画の承認 ⑤環境管理責任者の任命
環境管理責任者	井上(邦)	<ul style="list-style-type: none"> ①環境経営システム全体の構築・運営の責任者 ②環境経営システム実績等の代表者への報告 ③環境目標、環境活動及び環境活動計画書の確認、指示 ④環境目標、環境活動計画の進捗確認と修正の指示・実施 ⑤環境経営システムに関する問題の明確化と記録の総括 ⑥環境情報の外部への連絡 ⑦環境活動レポートの作成 ⑧教育と訓練の総括 ⑨緊急事態発生時の判断
担当者	梶原	<ul style="list-style-type: none"> ①環境管理責任者の代行及び環境活動の全社的な推進 ②環境データの取りまとめ(集計) ③環境文書発行・管理の実務 ④その他、EA21事務全般
社員		<ul style="list-style-type: none"> ①環境方針、目標の理解 ②環境活動の理解と実施 ③環境法規制の遵守 ④緊急事態の予防策、対応策の実施 ⑤内部コミュニケーションの実施 ⑥改善の為に提案

4. 現状での改善課題と改善活動の行動指針



5. 環境目標

環境目標	単位	場所	基準年	初年度	2年度	3年度	4年度	5年度
			24年10月～25年9月 ＜実績値＞	25年10月～26年9月 ＜目標値＞	26年10月～27年9月 ＜目標値＞	27年10月～28年9月 ＜目標値＞	28年10月～29年9月 ＜目標値＞	29年10月～30年9月 ＜目標値＞
CO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	本社事業所	73,861	73,122	72,383	71,645	70,906	70,168
電気使用量削減	kWh	本社事業所	95,538	94,583	93,627	92,672	91,716	90,761
LPガス使用量削減	m ³	本社事業所	42.80	42.37	41.94	41.52	41.09	40.66
ガソリン使用量削減	ℓ	本社事業所	9,618	9,522	9,426	9,329	9,233	9,137
軽油使用量削減	ℓ	本社事業所	5,571	5,515	5,460	5,404	5,348	5,292
廃棄物排出量削減	t	本社事業所	21.90	21.68	21.46	21.24	21.02	20.81
水使用量削減	m ³	本社事業所	209	207	205	203	201	199
化学物質の管理	kg	本社事業所	1,884	1,865	1,846	1,827	1,809	1,790
グリーン購入	リスト数	本社事業所	3	4	5	6	7	8
	説明		・作業服 ・リサイクル部品 ・ASKUL事務用品	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み
環境啓発活動	件	本社事業所	24	25	26	27	28	29
	説明		・月2回の交差点清掃	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み	・新規取り組み
売上実績	千円	本社事業所	190,192	192,094	194,015	195,955	197,915	199,894
入庫台数	台	本社事業所	3,646	3,682	3,719	3,756	3,794	3,832

(注記) 電気の二酸化炭素排出係数は平成22年度の九州電力の二酸化炭素実排出係数0.385を使用削減対象の数値目標は、基準年度に対して初年度-1%、2年度-2%、3年度-3%とする。その他の目標課題は、達成目標値を示す。

6-1. 環境目標の実績

環境目標	単位	場所	基準年 H24年10月 ~H25年9月 実績値	初年度 H25年10月 ~H26年9月 実績値	2年度 H26年10月 ~H27年9月 実績値	3年度 H27年10月 ~H28年9月 実績値	4年度 H28年10月 ~H29年9月 実績値	5年度 H29年10月 ~H30年9月 目標値	5年度 H29年10月 ~H30年9月 実績値	目標達成 の判定
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	本社事業所 (目標削減値)	73,861	66,180	71,176	70,906	70,822	70,168	63,241 90%	○
電気使用量 削減	kWh	本社事業所 (目標削減値)	95,538	80,542	89,976	91,716	82,632	90,761	76,283 84%	○
LPガス使 用量削減	m ³	本社事業所 (目標削減値)	43	44	35	41	39	41	44 107%	×
ガソリン使 用量削減	ℓ	本社事業所 (目標削減値)	9,618	9,472	7,860	9,233	7,630	9,137	7,512 82%	○
軽油使用量 削減	ℓ	本社事業所 (目標削減値)	5,571	4,928	6,929	5,348	8,069	5,292	6,211 117%	×
廃棄物排出 量削減	t	本社事業所 (目標削減値)	22	15	18	21	25	21	23 110%	×
水使用量削減	m ³	本社事業所 (目標削減値)	209	202	242	201	301	199	300 151%	×
化学物質の 管理	kg	本社事業所 (目標削減値)	1,884	1,328	1,349	1,809	986	1,790	2,127 119%	×
環境啓発活 動	件	本社事業所 (目標増加数)	24	27	27	27	30	29	32 110%	○
グリーン購 入	リスト数	本社事業所 (目標増加数)	3	5	6	7	7	8	8 100%	○
売上実績	千円	本社事業所 (目標増加額)	190,192	201,306	211,058	197,915	227,340	199,894	235,135 118%	○
入庫台数	台	本社事業所 (目標増加数)	3,646	3,332	3,483	3,794	3,761	3,832	3,951 103%	○

(注記) 実績値及び目標値は、期間の実数合計値とする。

6-2. 入庫台数あたりの環境負荷実績

環境目標	単位	場所	基準年 H24年10月 ~H25年9月 実績値	初年度 H25年10月 ~H26年9月 実績値	2年度 H26年10月 ~H27年9月 実績値	3年度 H27年10月 ~H28年9月 実績値	4年度 H28年10月 ~H29年9月 実績値	5年度 H29年10月 ~H30年9月 目標値	5年度 H29年10月 ~H30年9月 実績値	目標達成 の判定
二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ /台	本社事業所 (目標削減値)	20.26	19.86	20.44	18.69	18.83	18.31	16.01 87%	○
電気使用量 削減	kWh/台	本社事業所 (目標削減値)	26.20	24.17	25.83	24.17	21.97	23.69	19.31 82%	○
LPガス使 用量削減	m ³ /台	本社事業所 (目標削減値)	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01 104%	×
ガソリン使 用量削減	ℓ/台	本社事業所 (目標削減値)	2.64	2.84	2.26	2.43	2.03	2.38	1.90 80%	○
軽油使用量 削減	ℓ/台	本社事業所 (目標削減値)	1.53	1.48	1.99	1.41	2.15	1.38	1.57 114%	×
廃棄物排出 量削減	kg/台	本社事業所 (目標削減値)	6.01	4.50	5.17	5.54	6.65	5.48	5.82 106%	×
水使用量削減	m ³ /台	本社事業所 (目標削減値)	0.06	0.06	0.07	0.05	0.08	0.05	0.08 146%	×
化学物質の 管理	kg/台	本社事業所 (目標削減値)	0.52	0.40	0.39	0.48	0.26	0.47	0.54 115%	×
環境啓発活 動	件/台	本社事業所 (目標増加数)	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01 107%	○
グリーン購 入	リスト 数/台	本社事業所 (目標増加数)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00 97%	×
売上実績	千円/台	本社事業所 (目標増加額)	52.16	60.42	60.60	52.16	60.45	52.16	59.51 114%	○
入庫台数	台	本社事業所 (目標増加数)	3646.00	3332.00	3483.00	3794.04	3761.00	3832.00	3951.00 103%	○

環境活動計画の取組結果とその評価と次年度の取組内容

1. 改善活動の取り組み結果

取組内容			
報告・連絡・相談・声掛け・指示	整備	○	
不具合報告・作業終了報告・ライン完成報告・作業指示・相談事・クレーム報告・仕損じ報告を素早くできていますか？	飯金	○	
	事務所	○	
車輛の入替え・車輛の駐車	整備	○	
車輛の入替え設置は毎日帰りにしてありますか？引取り車両は打合せをしておめていますか？	飯金	○	
	事務所	○	
部品手配・イラスト手配	整備	○	
部品手配は追加報告手配、発注忘れ、発注ミスなく出来ていますか？イラスト手配は素早く出来ていますか？部品納期の伝達は出来ていますか？	飯金	○	
	事務所	○	
5S運動	整備	○	
整理・整頓・清掃・いらぬ部品の処分は出来ていますか？部品、工具、材料は探し回すことは無かったですか？	飯金	○	
	事務所	○	
エコ活動	整備	○	
部品庫、工場、事務所内の人の居ない場所や昼休みは節電をしていますか？消耗品のエコ活動は徹底していますか？	飯金	○	
	事務所	○	

2. 評価と次年度への課題

①二酸化炭素排出量の削減

電気使用量では事務所のエアコンを入れ替えたことで7月単月で前年よりも1722KWh削減することができた。今年の冬も削減が期待できるので次年度ではさらに削減に向けて努力していきたい。LPガスは予想通り前年比増加となった。太陽光など代替エネルギーの検討が課題となる。ガソリン・軽油の使用量は特に影響がおおきな増加要因がなく数値として落ち着いてきていると思う。次年度でも社用車の給油を行う担当者がエコ意識をしっかりと継続できるように指導をしていく。

②廃棄物の削減

汚泥の排出量が前年比で1 t 増加している。昨年3月に油水分離槽排水に油膜があるのを自主点検で発見し管理業者による分離槽内の清掃を行った。そこで回収された汚水処理分が増加している。管理業者による3ヶ月毎の点検報告を徹底するように指示を行ったが、今後も定期的な分離層清掃は必要となる。なお次年度では問題がなければ点検のみの見込みである。

③水使用量の削減

特に使用に対して問題報告は受けていないが前年と同じ使用量となっている。水量計の確認は自主的に行っていないため異常値発生の変因が掴めていない。日常点検項目に水量計のチェックを加え早期発見を行う。

④化学物質排出量の削減

全面塗装の工事受注が増えたため倍増した。昨年度は排出量1 t 未満でPRTR報告を行わなかったが今年度は必要となる。

⑤グリーン購入の推進

帳票類・封筒・ユニフォームの購入。

⑥環境啓発活動

月二回の周辺道路・交差点の自主清掃活動の継続。整備振興会主催の清掃ボランティア活動への参加。

代表者による全体評価と見直しの結果

代表者による全体評価

今年度は省電力タイプの設備導入で電気使用量は大幅に削減することができた。しかし引き続き水使用量などで潜在的な問題があることも確認された。改善活動で個々は取り組んでいると自己評価しているが組織的な取り組みは十分になされていない。発生したトラブルや異常に対して問題提起する環境を構築することが必要である。壊れて使用できない工具や備品などがあっても報告されないことがある。なぜかと問うと修理や買い替えで時間や費用が発生するためそのままにしているという。問題意識のズレ、根本的な経済活動に対する理解が不足しているためこのような問題が起きていると思う。確かに業績は向上しているので年々業務は忙しくなっているが、環境改善を怠らなければ多くの無駄が発生し、せっかくの利益が目に見えない形で失われていることをしっかりと理解させることが必要だと気付く年度であった。

見直しの結果

項目	見直しの結果
環境方針	継続する。
環境目標	見直す。
環境活動	見直す。
マネジメント システムの仕組み	継続する。

平成31年3月18日
代表取締役 井上 邦広